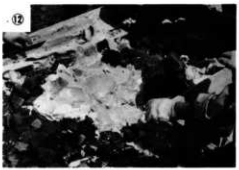
⑪

裏に支えの骨組をつくり，裏土と一体化させるため，ポリマールをしみ込ませたグラスファイバーマットをはりつける。

⑫



遺構の天地を元にもどし，上ぶた，発泡ウレタン，画仙紙，針金等を除去していく。

⑬

遺構面を清掃し，ＥＸＰ（イソシアネートプリポリマー）をさらにしみ込ませて固める。
薬剤：ＥＸＰ，ＰＳ－ＮＹ－シンナー

⑭

動く石はエポキシ系の接着剤で固定し，ひびがはいって土が動く場合は，エポキシ樹脂エマルジョンの原液を流し込んだり，土と練ったものをつめておく。
薬剤：エポキシ系接着剤，エポキシ樹脂エマルジョン

⑮

１号集石

清掃を行ない，展示用の化粧板などをあてる。カビ対策用にホルマリンを４～５倍位薄めたものを塗布しておく。

⑮′

２号集石

神ノ木山遺跡

目　　次

Ⅰ　調査に至るまでの経過 …… 1

Ⅱ　調査の組織及び調査の経過 …… 1

Ⅲ　遺跡の位置及び環境 …… 2

Ⅳ　調査の概要 …… 3

Ⅴ　むすび …… 3

Ⅰ．調査に至るまでの経過

九州縦貫自動車道の計画は昭和43年３月，整備計画が決定され，つづいて４月には日本道路公団に対して，加治木～鹿児島間25kmの区間について工事施行命令が出された。

これを受けて，県教育委員会は文化庁の指導を受け，日本道路公団鹿児島工事事務所と連絡のうえ，県内在住の考古学，文化財関係者の協力を得て，昭和43年12月17日～昭和44年１月20日まで，加治木～鹿児島間の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施した。

その後，本工区の工事着工が具体化したため，県教育委員会文化室（当時）は，昭和47年８月22日，再び分布調査を実施した。

これら２回の分布調査の結果，鹿児島市の区間内には，木ノ迫・加治屋園・加栗山・神ノ木山の４遺跡が確認された。

その後，建設事業の推進と文化財の保護について協議をすすめた結果，これらの遺跡については発掘調査を実施し，記録保存を図ることとなった。

発掘調査は，昭和49年２月より加栗山遺跡から実施した。

本遺跡は，昭和50年５月12日～15日まで実施した。

Ⅱ．調査の組織及び調査の経過

調査責任者	文化課長	宇都　哲	（昭和50年度）
	文化課長	山下典夫	（昭和55年度）
調査企画	専門員	河野治雄	（昭和50年度）
	専門員	本蔵久三	（昭和50・55年度）
	課長補佐	有村八朗	（昭和50年度）
	課長補佐	新　時弘	（昭和55年度）
調査担当者	文化財研究員	戸崎勝洋	
	主事	青崎和憲	
事務担当者	係長	中島敏光	（昭和50年度）
	係長	川畑栄造	（昭和55年度）
	主事	野村和徳	（昭和50年度）
	主事	安藤幸治	（昭和55年度）
	主事	長山恭子	（昭和50年度）
	主事	天辰京子	（昭和55年度）

発掘調査は，昭和50年５月12日より草木の下刈りからはじめ，２×２ｍのトレンチを順次掘り下げたが，耕作土下はシラス層（無遺物層）であったため５月15日終了した。

調査期間は４日間である。

Ⅱ．遺跡の位置及び環境

本遺跡は，鹿児島市下田町字神ノ木山に所在する。日本道路公団の九州縦貫自動車道の中心杭でいえば，STANO 212付近の開拓された畑地である。

このあたりは，シラス台地が侵蝕を受けてできた開拓谷が入り込み複雑な地形となる。本遺跡の所在するところは，北西・南東及び南側とも深い谷となり，幅約70mの馬背状を呈する。標高約113 m を測る。現況は傾斜面を削平した狭い段々畑が尾根を中心に左右に点在し，その多くは荒地と化している。

第１図　神ノ木山遺跡位置および周辺遺跡

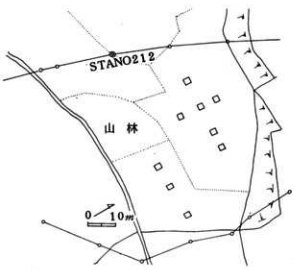
１．神ノ木山遺跡　２．加栗山遺跡　３．加治屋園遺跡　４．黒曜石原産地　５．石郷遺跡　６．七社遺跡　７．前平遺跡　８．春日町遺跡　９．若宮神社　10．大竜小学校　11．南洲神社遺跡　12．竪野(冷水)窯跡　13．鶴丸城(鹿児島城)本丸・二の丸　14．釘田遺跡第８地点　16．県立医大遺跡　17．一の宮遺跡　18．笹貫遺跡　19．武貝塚

Ⅳ．調査の概要

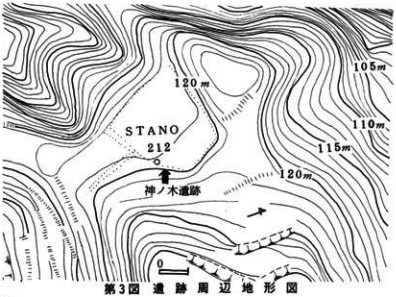
調査は，九州縦貫自動車道の中心杭 STA 212 を中心に 2 m の方眼を設定し，2×2 m 及び 2×4 m を基本とし，市松状に掘り下げた。

その結果，10～30cmの耕作土下はシラス層となり，遺物は 1 点も出土しなかった。

このような状況は各トレンチとも同様であるが，一部に二次堆積による黒色土層が観察されたものの，その地点は流水路状となる地形のためであった。



第2図 トレンチ配置図



第3図 遺跡周辺地形図

Ⅴ．むすび

以上のように，発掘調査では遺構・遺物は何ら検出されなかった。

遺　跡　全　景（西から）

遺　跡　近　景（西から）

編　集　後　記

二度の厳寒と酷暑に耐え，ある時は，青天を突き破るがごとくもくもくと立ち登る桜島の噴煙の降灰を被り，ある時は，川上小学校・緑ケ丘中学校の生徒達と古代の人々の生活について，竹ベラや移植ゴテを持っての楽しい語いの中，遂行された発掘調査は，中世山城・縄文時代早前期・先土器時代の文化層が複合し，いろんな面でセンセーショナルなものであった。

その結果，山と積まれた膨大な資料と新事実を前に，報告書に取り組んだわけであるが，万全なることを意図したにもかかわらず，満足いかないものとなり，今となっては何等なす術もない。今後，機会をみて不備を修正し，その責務を全うしたいと想う。

最後に，発掘調査にあたり，貴重な指導や助言を賜った各分野の先生方，さまざまな便宜をはかり協力いただいた日本道路公団，三井建設，徳沢建設，作業員として働いてくださった地元の方々，整理作業を担当していただいた収蔵庫の方々に深謝の意を表したい。

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告　(16)

九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告　V

加　栗　山　遺　跡
神　ノ　木　山　遺　跡

発行日　昭和56年３月
発　行　鹿児島県教育委員会　〒８９２　鹿児島市山下町14番50号
印　刷　かわち印刷有限会社　〒８９２　鹿児島市下竜尾町26－１

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書　(16)

九州縦貫自動車道関係
埋蔵文化財調査報告

V

加栗山遺跡

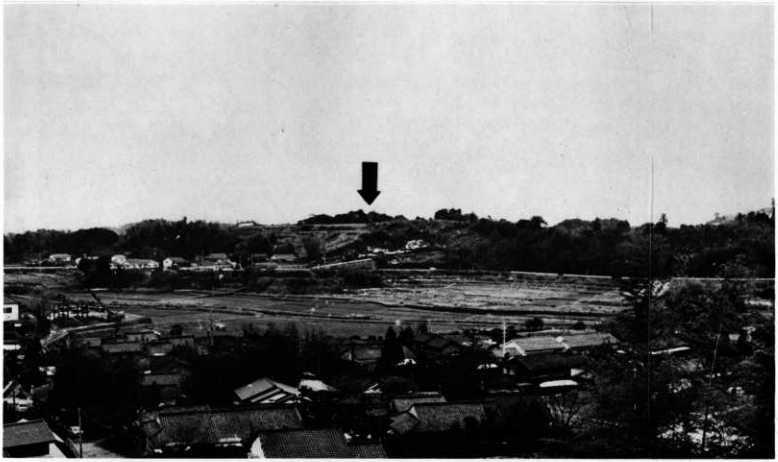
(図　版)

1981.3

鹿児島県教育委員会

図版1

加茂山遺跡と周辺地形航空写真　1：7,000
（日本道路公団提供）



加栗山遺跡全景（北東より望む）

図版2

1

図版3

曲　輪　Ⅰ（発掘前・南から）

2

腰　曲　輪（発掘前・南から）

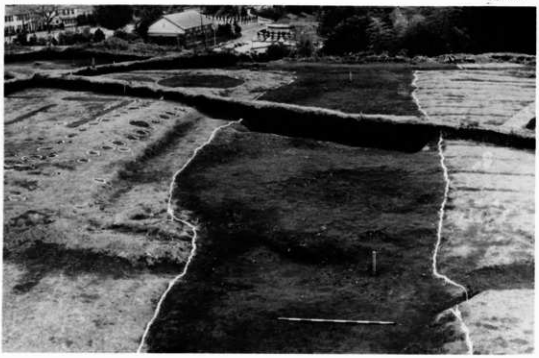
1

土　層　断　面

2

ピ ッ ト 群（曲輪Ⅰ）

1



堀　Ⅰ（検出時・西から）

2

堀　Ⅰ（掘り下げ時・西から）

1

堀Ⅱ・出入口・腰曲輪（北から）

2

堀 Ⅱ 土 層 断 面

1

構　列（検出時・西から）

2

構　列（掘り下げ時・西から）

1

溝状遺構(D・E－6・7区)

2

溝状遺構(G～J－2・3区)

1

炉址・湯釜出土状況

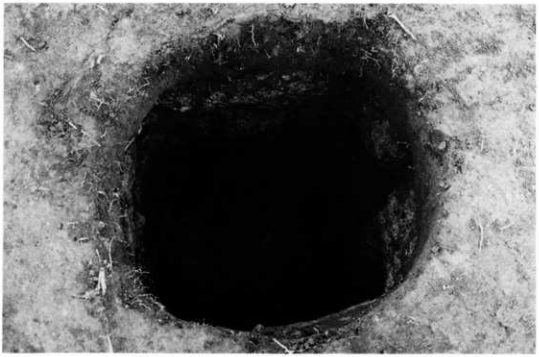
2

炉址Ⅲ・Ⅳ出土状況

1

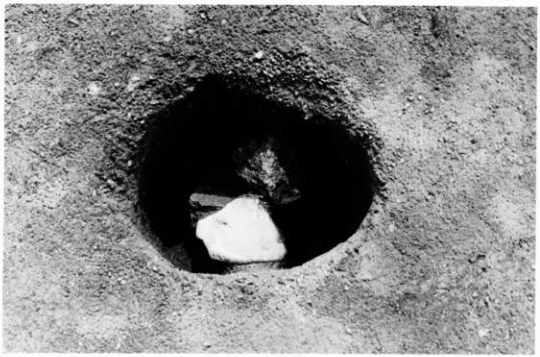
礫溜りⅡ出土状況

2



井戸出土状況

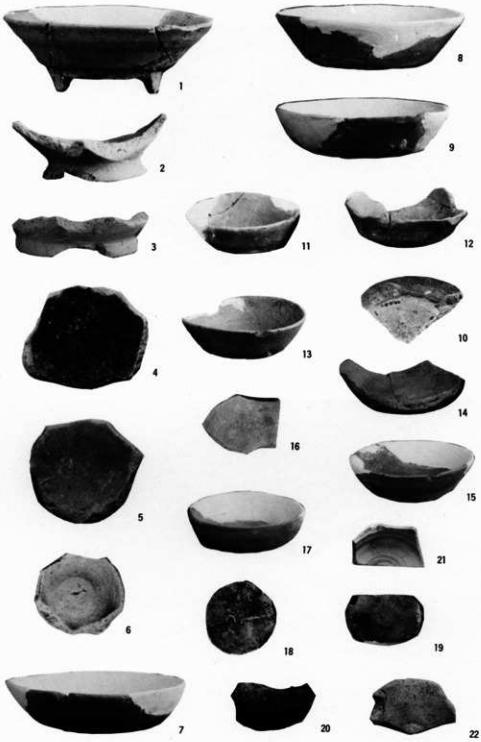
1



柱 穴 出 土 状 況

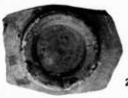
2

土 師 器 出 土 状 況



土　師　器

23

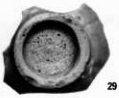

24

25

26

27

28

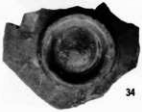

29

30

31

32

33


34

35

36

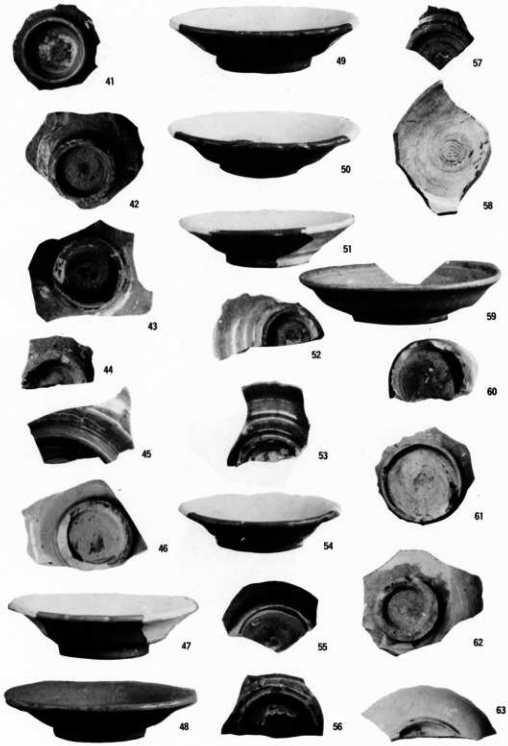
37

38

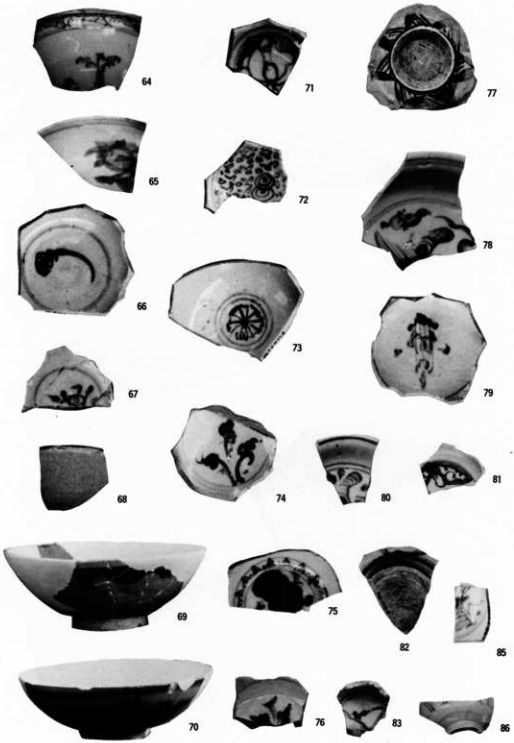
39

40

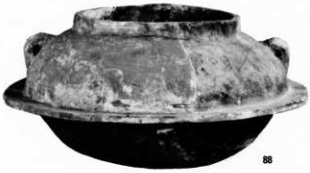
青　　磁



青　磁・白　磁



染　　付



湯釜・すり鉢・甕・香炉・軽石製蓋

92

94

93

石　臼・こうがい

1

成　川　式　土　器

2

高　坏・甕の底部

1

竪穴住居址群（西から）

2

竪穴住居址群と集石①・②（西から）

1

Ⅰ 号 住 居 址（南より）

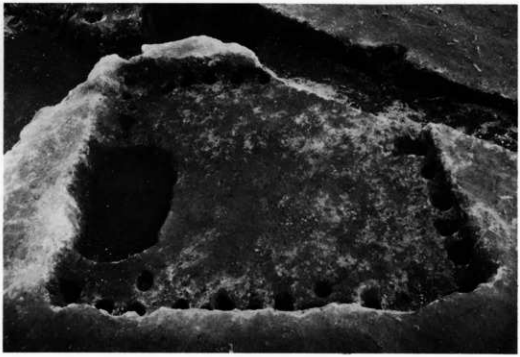
2

Ⅱ 号 住 居 址（西より）

1

Ⅲ 号 住 居 址 (東より)

2



Ⅳ 号 住 居 址 (北より)

1

V 号 住 居 址（北より）

2

Ⅵ 号 住 居 址（東より）

1

Ⅶ 号 住 居 址（西より）

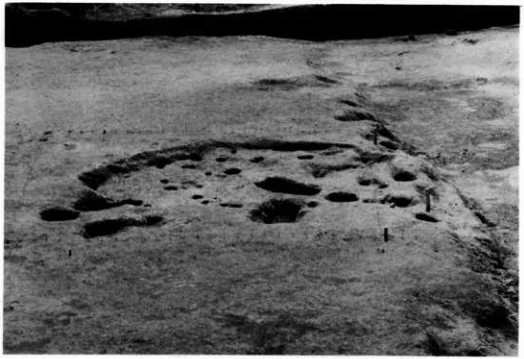
2

Ⅶ号住居址・Ⓐ連穴土坑（東より）

1

Ⅷ・Ⅸ号住居址（北より）

2



Ⅷ・Ⅸ号住居址とⓐ連穴土坑（北より）